

令和6年3月6日
市民局世界水泳担当

福岡市政担当記者各位

世界水泳選手権 2023 福岡大会及び
世界マスターズ水泳選手権 2023 九州大会の開催結果報告について

令和5年7月に開催した世界水泳選手権 2023 福岡大会及び8月に開催した世界マスターズ水泳選手権 2023 九州大会につきまして、大会事業費の決算見込みや大会の効果等のとりまとめをおこない、このたび組織委員会会議において報告・議決いたしましたので、お知らせいたします。

記

1、添付資料

「世界水泳選手権 2023 福岡大会及び世界マスターズ水泳選手権 2023 九州大会の開催結果について」

問い合わせ先
市民局世界水泳担当
担当:米倉
711-4937(内1834)

**世界水泳選手権 2023 福岡大会及び
世界マスターズ水泳選手権 2023 九州大会
開催結果について**

世界水泳選手権 2023 福岡大会及び 世界マスターズ水泳選手権 2023 九州大会の開催結果について

1 大会開催結果

○世界水泳選手権 2023 福岡大会

【期 間】 令和5年7月14日（金）～ 7月30日（日）17日間

会場	種別	7月																
		14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日
マリンメッセ福岡A館	アーティスティックスイミング	●	●	●	●	●	●	●	●	●								
	競泳											●	●	●	●	●	●	●
マリンメッセ福岡B館	水球			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
福岡県立プール	ダイビング	●	●	●	●	●	●	●	●	●								
シーサイドももち海浜公園	オープンウォータースイミング		●	●		●		●										
	ハイダイビング												●	●	●			

【参加選手数】 191 各国・地域、2,361 人

【延べ来場者数】 302,946 人

【世界新記録】 10 個

【大会新記録】 14 個

【事前キャンプ】 自治体数 20 自治体 参加国数 35 各国 参加人数 890 人

【TV 視聴者数】 130 各国・地域、19 億 4 千万人

【公式 SNS アクセス数※】 約 36 億 5 千万件

{
 Facebook 18 億 6,551 万件、Instagram 10 億 2,728 万件
 X 6 億 1,752 万件、TikTok 1 億 2,622 万件、YouTube 2,121 万件
}

※世界水泳連盟の公式 SNS のアクセス数の合計



○世界マスターズ水泳選手権 2023 九州大会

【期 間】 令和5年8月2日（水）～ 8月11日（金）10日間

会場	種別	8月									
		2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日
マリンメッセ福岡A館	競泳				●	●	●	●	●	●	●
総合西市民プール					●	●	●	●	●	●	●
福岡県立プール	ダイビング	●	●	●	●	●					
シーサイドももち海浜公園	オープンウォータースイミング	●	●								
アクアドーム熊本(熊本市)	水球				●	●	●	●	●	●	
鴨池公園水泳プール(鹿児島市)	アーティスティックスイミング				●	●	●	※	※	●	

※台風6号の影響により8月8、9日のアーティスティックスイミング競技は10、11日に延期

【参加選手数】 77 各国・地域、7,512 人

【延べ来場者数】 180,104 人(うち福岡市会場 165,706 人)

【世界新記録】 33 個



2 大会事業費の決算見込み

(1) 支出

(百万円)

項目	※1 (7) 予算	(イ) 決算見込み	増減 (イ-7)	備考
(a) 大会事業費 (b+c+d)	22,500	20,467	▲ 2,033	
(b) 会場整備費	11,400	10,695	▲ 705	仕様の見直しや備品数量の減等
(c) 運営費	5,700	5,023	▲ 677	
運営	3,400	2,735	▲ 665	競技役員人件費の減等
選手権料	2,300	2,288	▲ 12	世界水泳連盟との交渉による減等
(d) 宿泊・輸送費等	5,400	4,749	▲ 651	
宿泊・輸送費	3,100	2,758	▲ 342	世界水泳連盟との交渉による減等
マスターズ大会経費	740	703	▲ 37	
広告・宣伝費	560	512	▲ 48	
その他	1,000	776	▲ 224	ボランティア関係経費の減等

(2) 収入

(百万円)

項目	※1 (7) 予算	(イ) 決算見込み	増減 (イ-7)	備考
(e) 大会事業収入 (f+g+h)	22,500	22,483	▲ 17	
(f) 公的助成	※2 6,000	6,209	+209	
国補助金		2,743		
toto (スポーツ振興くじ)		1,166		
県負担金	6,000	1,800	+209	
宝くじ		300		
日水連負担金		200		
(g) 協賛・寄付・チケット収入等	※2 3,500	3,614	+114	
協賛金収入 ※3	2,500	1,081	▲ 3	
寄付金収入 ※4		1,416		
チケット収入 ※5		569		
マスターズ参加料	1,000	165	+117	チケット収入の減 備品レンタル収入の増等
その他		383		
(h) 福岡市負担金 ※6	※2 13,000	12,660	▲ 340	

(3) 収支差額

(百万円)

項目	(7) 予算	(イ) 決算見込み	増減 (イ-7)	備考
(i) 収支差額 (e-a)	0	2,016	+2,016	

※1 令和5年2月時点の見込み額

※2 公的助成は60~65億円程度、協賛・寄付・チケット収入等は35~40億円程度、福岡市負担金は120~130億円程度としていたもの

※3 協賛額(現金)から手数料を差し引いた額

※4 企業及び個人からの寄付の合計額

※5 チケット販売額から手数料を差し引いた額

※6 福岡市負担金は市を経由して組織委員会に拠出する宝くじ、toto, 寄付を除いた実質の負担額

(4) 収支差額について

収支差額は、組織委員会の残余財産として、福岡県、福岡市に贈与することとし、その配分の基本的な考え方は次のとおり。

○贈与額

福岡県 残余財産 × 5%

福岡市 残余財産 - 福岡県への贈与額

(参考：見込額)

福岡県への贈与額 100 百万円

福岡市への贈与額 1,916 百万円

残余財産 2,016 百万円

なお、実際の大会事業費の決算額、残余財産額及び両自治体への贈与額については、現在行っている監事による会計監査を経て、組織委員会の書面決議により3月末までに確定するもの。

(5) 福岡市負担金について

最終的な市負担金は約107億円となり、130億円^(※1)から約23億円の減額となる見込み

(h) 福岡市負担金 残余財産贈与額
12,660 百万円 - 1,916 百万円 = 10,744 百万円

3 大会の効果

(1) スポーツの振興

○市内小中学生・特別支援学校の児童・生徒対象の観戦招待事業(88校 11,322名)

- ・アーティスティックスイミング 7月14、18、20日 51校 5,782名
- ・水球 7月18、19、20日 36校 5,305名
- ・ダイビング 7月19日 1校 235名

○地域観戦招待事業

- 水球 7月16～27日 46団体 1,765名

○公式練習見学会

- ハイダイビング 7月23日 4校区(福浜・南当仁・当仁・百道浜) 約90名

○親子バックヤードツアー

- 7月26、27日 参加者 54組 108名

○元トップアスリートによる水泳教室(小中学生 257名)

・講師:金藤理恵さん

(リオデジャネイロ五輪 200m平泳ぎ金メダリスト)

令和4年 7月 総合西市民プール

10月 博多市民プール

東市民プール

11月 中央市民プール

12月 南市民プール

早良市民プール

・講師:アンソニー・アービンさん

(2001世界水泳福岡 50m、100m自由形金メダリスト)

ラノミ・クロモウイジョジョさん

(ロンドン五輪 50m、100m自由形金メダリスト)

7月23日 南市民プール



元トップアスリートによる水泳教室

○現役トップアスリートによる水泳教室(参加者 85名)

・講師:瀬戸大也選手

(400m個人メドレー銅メダリスト)

8月4日 舞鶴中学校水泳部員

・講師:鈴木聡美選手

(50m平泳ぎ7位入賞・福岡県出身)

12月9日 南市民プール

12月10日 博多市民プール



現役トップアスリートによる水泳教室

○世界水泳会場を利用したジュニアスイマーの公認大会

大会名称 「およげマッセ福岡 2023 マリンメッセ福岡」

8月 7日 中高生 121 名

8月 8日 小学生 119 名

福岡県水泳連盟強化指定選手及び一般募集で当選した
240 名が世界水泳と同じゲートから入場し、本番と同じ MC に
よる入場コールを受けてレースに参加。保護者等 330 名が
観戦



世界水泳と同じ舞台で開催したジュニア大会

○大会スポンサーの活動によるもの

・ユニクロドリームプロジェクト

7月 29～31 日 小学生 20 名(保護者同伴)

ユニクロドリームキャプテン:萩野公介さん

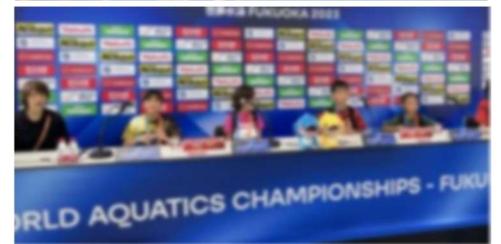
(リオデジャネイロ五輪 400m個人メドレー金メダリスト)

競技観戦やバックヤードツアーを実施



・ふくおかフィナンシャルグループによるバックヤードツアー

7月 29 日 小学生・中学生・保護者 計 25 名



スポンサー主催のバックヤードツアー

・ニコンキッズプログラム

7月 24、26、27、28 日 小中学生 計 40 名

バックヤードツアーやワークショップなどを実施

・BOAT RACE 振興会による観戦ツアー招待キャンペーン

7月 24、29 日、8月 10 日 計 80 名

現地滞在中の費用と宿泊付きの観戦招待



観戦ツアー招待キャンペーン

・ビーブリッジによる会場体験、ハイダイビング体験 VR

7月 20～30 日 マリンメッセ福岡 A 館海のモール 約 500 名

競泳の会場やハイダイビングを VR で体験

・西日本鉄道による体験型イベント

7月 28～30 日 ソラリアプラザ 約 150 名

メイン会場の VR 体験(運営協力:ビーブリッジ)



VRによるハイダイビング体験

(参考) 日本マスターズ水泳協会登録者数

2022 年 12 月末 27,639 名 (うち福岡県 840 名)

2023 年 12 月末 31,626 名 (うち福岡県 1,156 名)

増加人数 3,987 名 (うち福岡県 316 名)

(2) 地域経済の活性化

経済波及効果 市内 433 億円、全国 776 億円

〔※上記以外の世界水泳関連の経済波及効果
各自治体で開催された事前キャンプ 全国 6.4 億円〕

○算出方法

- ・算出機関 福岡アジア都市研究所（URC）
- ・算出にあたり組織委員会事務局から提供した数値

①属性別の国内・海外の来場者実人数及び宿泊数

世界水泳選手権	国内 計	120,293 人	平均	2.2 泊
	海外 計	15,976 人	平均	11.7 泊
世界マスターズ水泳選手権	国内 計	19,179 人	平均	6.4 泊
	海外 計	12,210 人	平均	17.4 泊

②大会事業費 20,467 百万円の部門分類別支出額

上記の数値をもとに、国や市の産業連関表を用いて、本大会の開催による経済波及効果を直接効果、1次効果、2次効果の3段階で算出した。

【大会事業費と消費額】(百万円)

大会事業費※		17,435
消費支出	国内移動費	4,182
	都市内移動費	267
	宿泊費	6,855
	飲食費	3,477
	土産買物費	1,721
	観光・娯楽費	1,830
	合計	18,331

【市内経済波及効果】(百万円)

直接効果	27,527
1次効果	8,358
2次効果	7,441
合計	43,327

【全国経済波及効果】(百万円)

直接効果	34,145
1次効果	25,973
2次効果	17,432
合計	77,550

※全体事業費のうち波及効果算定対象額

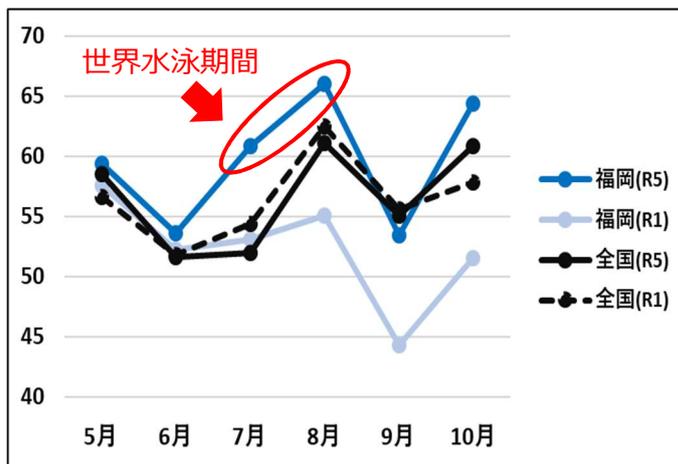
(参考)

①福岡県宿泊稼働指数 (九州経済調査協会)

- ・令和5年7月 福岡 60.8 全国 52.0
- ・令和5年8月 福岡 66.0 全国 61.1

(令和元年7月 福岡 53.1 全国 54.4
令和元年8月 福岡 55.1 全国 62.5)

宿泊稼働指数比較 (令和元年・令和5年)



②福岡県外国人延べ宿泊人数 (観光庁)

- ・令和5年7月 38万8,300人 令和元年比 1.1倍
- ・令和5年8月 40万4,180人 令和元年比 1.4倍

※欧米豪の宿泊人数増加割合 (令和元年比)

フランス (7月 5.9倍 8月 1.9倍)

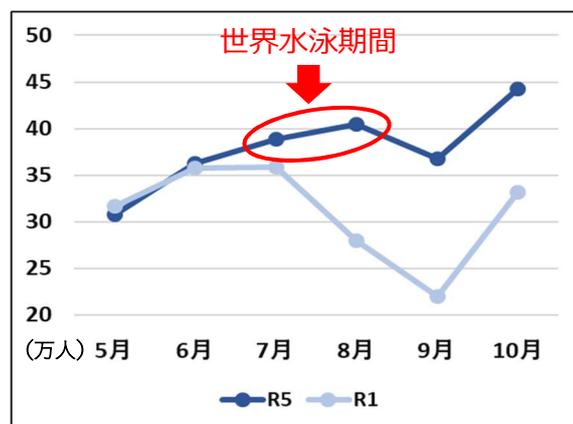
イギリス (7月 2.7倍 8月 1.5倍)

カナダ (7月 1.9倍 8月 2.0倍)

アメリカ (7月 1.7倍 8月 1.6倍)

オーストラリア (7月 3.0倍 8月 2.6倍)

外国人延べ宿泊人数比較 (令和元年・令和5年)



(3) 国際都市福岡の都市ブランド力の向上

○海外メディアによる放送、取材

(参考) 世界水泳連盟発表

放送権利局数 58局 (うち来福 29局 約 450名)

総放送時間 4,900時間

地上波テレビ放送のメディア露出による

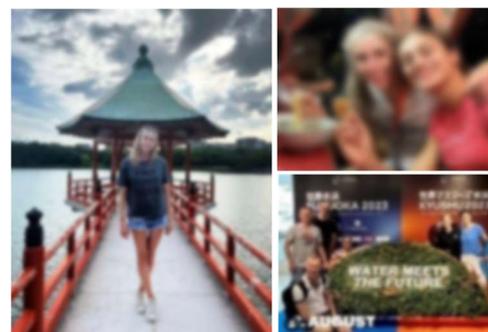
広告換算値 約 827億 4,540万円

○世界水泳連盟や組織委員会、来場者等による SNS を通じた福岡市の魅力発信

(参考) 世界水泳連盟発表

公式 SNS アクセス数 約 36億 5千万件 (再掲)

SNS への露出による広告換算値 約 76億 3,180万円



参加者による SNS 投稿の一例

○世界水泳連盟などからの受け入れ環境への高い評価

【選手や観客などの受け入れ環境とおもてなし】

・競技役員、運営スタッフ、ボランティア等による運営体制
世界水泳連盟から任命された競技役員(521名)と日本水泳連盟が招集した専門知識と経験を有する競技運営スタッフ(982名)により円滑な競技運営が実施された。また、3,228名(延べ12,323名)のボランティアや4,147名(延べ6,614名)の支援職員が多岐に渡る業務において大会を裏側でサポート



競技運営を支えるスタッフ

・医療体制

各競技会場内に医務室を設置し、一次医療体制を構築。

〔世界水泳選手権 医師44名(延べ271名)看護師113名(延べ492名)
世界マスターズ水泳選手権 医師44名(延べ162名)看護師135名(延べ199名)〕

また、福岡市内8医療機関の協力のもと、救急対応のほか、必要に応じてさらなる検査や診断、治療ができるよう二次医療体制も整えた。さらに、世界水泳選手権においては選手等からの医療相談について多言語対応による24時間医療サービスコールセンターを開設



競技会場医務室

【指定医療機関(8)】

九州大学病院、福岡大学病院、国立病院機構九州医療センター
済生会福岡総合病院、福岡赤十字病院、原三信病院
福岡市民病院、福岡歯科大学医科歯科総合病院

・開会式

7月14日 会場:ボートレース福岡 来場者:1,197人
ボートレース福岡屋内イベントホールにおいて、空間全体を使ったプロジェクションマッピングの中で主催者挨拶や開会宣言を行い、開会式前には、LEDで装飾したボートによる演出や水上アトラクションを実施



上:開会式前の水上アトラクション
下:プロジェクションマッピング

・ドローンショー

7月15、16、17、21日 場所:Fukuoka Ichiba(ファンゾーン)
福岡県初となるドローンショー(150機で10分間)を実施



夜空を彩るドローンショー

・シティドレッシング

JR 博多駅、西鉄天神駅及び市営地下鉄6駅の公共交通機関をはじめ、福岡空港、福岡タワー、福岡ポートタワーなど市内各所で装飾を実施。また、博多・天神の目抜き通りに設置した街路灯バナーの費用の一部は、福岡市初のガバメントクラウドファンディングによる資金を活用(74名 1,409,777円)



福岡空港国内線到着口の懸垂幕

・花による世界水泳おもてなし景観づくり(住宅都市局)

国際会議場前に高さ3.5mの大会マスコット花オブジェを設置。また、大博通り沿いを中心に、会社やお店(約100店舗・企業等)のご協力をいただき、寄せ植えを約1,000基設置



国際会議場前の大会マスコット花オブジェ

・九州大学と共同で作成したピクトグラムの活用

言葉や国、地域を問わず、情報を伝達できるピクトグラムを九州大学と共同で作成し、屋外誘導サインに活用



間伐材を使用した選手入場ゲート

・スポーツプレゼンテーション(競技演出・進行)

入場ゲート及びフラッシュインタビューのバックボード等には福岡市産の間伐材を使用。また、マリンメッセで行われた競技の合間には、地元の学生を中心としたグループにより太鼓、琴、チアリーディング等の演目で盛り上げ演出を実施



高校生による和太鼓パフォーマンス

・選手に日本文化を体験してもらい取り組み

浴衣の着付け、書道、けん玉の体験や修猷館高校の華道部が制作した生け花や福岡出身の書道アート及び博多伝統工芸品の展示等を競技会場にて実施



浴衣の着付け体験

・表彰式ボランティア衣装

市内ファッション専門学校3校(大村美容ファッション専門学校・香蘭ファッションデザイン専門学校・九州デザイナー学院)から1点ずつデザインを採用



表彰式ボランティア衣装

左から、大村美容ファッション専門学校
香蘭ファッションデザイン専門学校
九州デザイナー学院

・メダル

公募で選ばれたメダルのデザインコンセプトは「世界に広がる水の輝き」。メダルリボンは福岡市ゆかりの伝統工芸品である博多織仕様



メダル(表)

メダル(裏)

・チーム、個人トロフィー

世界水泳連盟により選出されたチームや個人のアスリートに授与されるトロフィーには日本伝統の縁起物である水引を用いた「博多水引」で制作



博多水引きで制作されたトロフィー

・情報発信・イベントの開催など(経済観光文化局)

動画による観光情報の発信
国内外からの来訪者向けのホームページサイトを制作
博多駅前広場でおもてなしイベント開催
会場周辺で山笠の展示、屋台の設置



マリンメッセ A 館前に飾られた山笠

・おもてなし店舗事業(経済観光文化局)

サイト掲載店舗数 568 店
大会期間中の観光客の受け入れに積極的な飲食店や小売店、体験施設などの店舗情報を発信



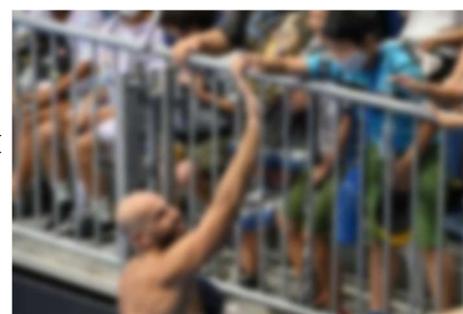
おもてなし店舗ステッカー

(4) 大会のレガシー継承

- 世界水泳で使用したウォームアッププール等の再活用
 - ・小学校プール改修(4校)
 - ・市民プールろ過器改修(3施設)
- 福岡市スポーツボランティアバンクの設置
登録人数 312名(令和6年1月末時点)
世界水泳を機に、スポーツを支える人材の育成やスポーツ大会の運営を支える人材の確保を目的に設置。運営ボランティア情報の発信や講習会などの開催により活動を支援
- 次代を担う子どもたちをはじめとした市民のかけがえのない経験
 - ・子どもたち、地域への観戦招待(再掲)
 - ・バックヤードツアー(再掲)
 - ・トップアスリートによる水泳教室(再掲)
 - ・世界水泳会場を使用したジュニアスイマーの公認大会(再掲)



大会ボランティアの様子



トップアスリートとの触れ合い

(5) 環境に配慮した取り組み

- 水素エネルギーの活用
Fukuoka Ichiba (ファンゾーン) のミスト発生器やライトアップ用の電源として水素バスの積載バッテリーを活用
- スポ GOMI×ユニクロ イベントの実施
ゴミ拾いをスポーツ感覚で楽しむ「スポGOMI」と世界水泳とのコラボレーションイベントをユニクロが実施
ゲスト：萩野公介さん
4月16日 参加人数84名
場所：シーサイドももち海浜公園
- 廃プラスチック再活用によるメダル
ペットボトルのフタを材料に、大会関係者へ配布する記念メダルを制作
- 環境に配慮した製品の活用、販売
Fukuoka Ichiba (ファンゾーン) において、米ストローの活用や牛乳パックを再利用した商品、石灰石を主原料とするLIMEXを使用したコップを販売



Fukuoka Ichiba に設置された水素バス



スポ GOMI イベントの様子



廃プラスチックを再利用した記念メダル